

刊夕日五十月十

常磐每日新聞

定価 一月五拾銭 三月一拾五銭 半年二拾五銭 一年五拾銭
廣告料 五拾銭以上 一頁一行五拾銭
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日新聞社
電話 六三〇番
印刷機 株式会社

人間としての釋尊

真繼 雲山

佛十六弟子のうち多聞第一をもつて知らるゝ阿難陀は廿歳(一説には卅歳)のときから佛常隨か侍者となつて、佛御入滅の最後の日にいたるまで廿五年間、影の形に添ふやうに佛に侍したその間に聞いておいた佛の説法を、佛滅後第一次結集のときに畢波羅窟において一字一句たがへずに誦したそれが後代の原始佛敎經典となり、それが土臺となつて後の大乘佛敎の花が咲いたのであるから、若し阿難陀なかりせば、今日の佛敎は或ひは地上に傳はつてゐなかつたかも知れず、阿難陀佛敎の殊勳者といふを妨げない。

廿五年もの長い間の佛説を一つ残らず記憶してゐて一字一句たがへずに誦したといふが如きことはアタマのわるい私たちには想像も及ばぬ話であるが、それはウンだらう杯と己れを以て他を律してはならぬ。日本にも群書類從五百卅巻を暗誦した埒保巳一の實例さへある。

阿難は理想的の副官で廿五年間、口答へ一つしたことはなかつたが、タツタ一度だけ問ひ返したことがあ

つたといふ。それは阿難は提婆の弟で、釋尊の從弟にあたる。釋尊の晩年に、その故國迦毘羅衛城は舍衛國瑠璃太子の大軍のために亡ぼされ釋迦族は滅亡する事となつた。その當時、釋尊は摩揭陀國の王舎城にゐられたが、不穩の形勢は刻々に判明して來た。矢も楯もたまたぬ阿難は

『世尊よ、悲しいにとですそれを傍觀せられるのは一體どういふ譯ですか』と尋ねた。釋尊は『お前はまた悟りが足らぬ空を知らぬ』といはれたが、それでも腑に落ちぬ阿難は、同じことを三たび尋ねたといふ。

ノット

モニヤ浴液で洗ふと、果實の汚点もとれますし、又結髪刷毛の汚れも去ります。

然らば釋尊は、故國の滅亡を平氣で見物してゐられたかといふに、決して然ではなかつた。證悟の前には成るほど一切は空であつたであらうが、人間としての釋尊は、よた人間として故國を救ふべき最善の努力を拂はれた跡が窺はれる。すなはち迦毘羅城に向ふ舍衛國の大軍を、葉蔭なき樹下に三たびまで待ち受けて瑠

璃太子の反省を求め給ふたしかも成行の如何ともすべからざるを見て、一切を宿因の道に任せられたのであつた。

斯くて一切を業報と親せられた後の釋尊は、故國の滅亡も因果應報といふて平氣で談笑せられたものかと

二明日の献立

【朝】さつまい、ねぎ卵の花汁

【晝】肴鹽焼き、粉ふき芋生薑

【晚】田舎しるこ、もろこしだご、魚のさかしほ煮

いふに、そこには矢張り人間としての血もあり涙もあつたと思はれる。

かつて大無量壽經を説かれるときは、光顔巍巍として威神極まりなかつた釋尊は、故國亡びんとする前七日、その宿命を豫覺して『今し頭痛を患ふ、猶し石をもつて壓せらるゝ如く、頭をもつて須彌山を戴くに似たり』と申されてゐる。經典の記者はそのときの御姿を傳へて『時に佛の尊顏容姿、輝き無く、いたゞきに光明がなく、衣服の色、變化す』と記してゐる。斯かる形容は大小經典中、殆んど他に類例なき文である

さうして城遂に陥り、城中煙火洞然たる中に立つて述べられた偈は有名な左の文であつた。

一切の行は無常なり
生者は必ず死あり
生ぜずんば即ち死せず
此の滅を最樂となす
まさに知るべし佛には、悟りそのものゝ體と人間としての釋尊とがあつたのである。さうして常に悟りの上に人間としての姿を置かれたものと思はれる。

世そんの高きに及びしなき私たちは佛前に捻華燒香し、禮拜讀經する時、それは朝みどりのすがすがしさであるが、一たび紅塵の巷に交錯するとき頭を抱へて溜息を吐くことが多い。朝みどりだけでは生きてもゆけぬ、塵も溜息もそれ等のすべてを證悟の上に眺めて塵垢のまゝにして解脱するといふ工夫が肝要である。どうせ生きてゐるからには、塲垢を抜け切る時はない。

【了】



平町風物歌(一)
島田忠夫

○松ヶ岡公園
櫻葉のやゝに散りしくベンチにはルンペンの來て足のべにけり
秋そらに立てる銅像に糞おとし飛びゆく鳥ゆくへ知らずも

運動靴は……

月星長靴を
斯界の王實用無比
名入れ金具付き
サービス
金四十五錢より

ゴム長靴は……
月星靴を
堅牢優美で
かるいのが特色
小 八〇より
大 二〇〇より

製靴部
運動具部

大塚支店

平・田町電話七七番

上田外科醫院

平町 南町
電話二一九番

産名城磐

産名城磐
産名城磐
産名城磐

吉田眼科病院

平町屋町、電話六八番

魚問屋

配達敏速

店代理平命生本日大最優最
榮盛賀目丁志
番三一電目四平

正札堂

イヤ！君！
いゝ冬服を求めたね
断然三二年型だよ
いやコレカネ！
例の……「ソレ」

六三四電通場車停目丁四町平

旭硝子株式会社製品

赤菱印
板ガラス
菓子壺
硝子食器
其他各種

松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番)
仙臺市榮町(電話五九七番)

高價買入

ツブシ・金銀
修繕 迅速 丁寧 廉價
星野時計店
平三丁目驛前通り

大膨張を見越して

區劃整理斷行

水産試験場の移轉を迫る 小名濱町の計劃

大商港築港、平小鐵道の敷設等を目前に控えて近年小名濱町の發展振りは目覚ましいものあり同町當局でも此の實現促進の運動を續ける一方將來此の完成後に於ける大膨張を見越して種々準備を進めてゐるが愈々明年度に於いて町内の大區劃整理を斷行する事と決定既に整理計劃の具体案も成つたが此の計劃によると現在の縣立水産試験場が非常に邪魔になるので昨十四日鈴木

原動力機検査

平署全管内に

平警察署では來月十八日の小名濱を皮切りに全管内諸工場に於けるモーター發動機等の原動力機の一斉検査を行ふ事になつたが日割は左の如くである

- 十一月十八日(小名濱)磐城水産工業會社東洋捕鯨會社、水野徳次郎(江名)吉田正雄(豊間)回春院、志賀嘉平、十九日(湯本)品川煉瓦會社(平)磐城片倉製糸工場、佐々木喜代治、難波製紙工場(廿日)(平)長小次郎、馬目房治郎、緑川大次郎、瀧野千藏、神谷廣之雄、稻島

唱歌會

平一校の 二十九日に

既報來る二十九日午前八時より一般保護者を招待し開催される平第一小學校唱歌會の役員は左の如く決定された

- (會長)曾我校長(副會長)坂内首席文書(書記)中

平青年野球大會

出場は十一分團 昨夕組合せ抽籤

既報明十六日から二日間平第一、商業の二グラントで開催される平町青年團各分團對抗スポンヂ野球大會の出場分團は十一チームと決定昨夕午後七時より信用組合樓上に於て各キャプテン出席抽籤の結果組合せは左の如く決定された

- 白銀町—新川町
南町—久保町
紺屋町—田町
五丁目—胡摩澤
三丁目—一丁目
鍛冶町—不戦一勝

架替竣工

十七日記念式

川前橋梁
石城郡川前村字瀬戸地内橋架換工事は平土木監督所の失業救済工事として工費二千圓を以つて八月中旬から着工したが此の程無事竣工を見たので同村では來る十七日午前十時より村社眞弓神社境内に於いて盛大な竣工式を舉行する事となつた

指導員を任命し

在米調査法變更

米穀法の改正で今後平穀物検査所管内に於ける在米高の調査は従来の生産者持商人持と區別した見積法を廢して來る十一月一日よりは各町村の農業倉庫營業倉庫運送者銀行倉庫等も各管理署から在米高を縣に申告せしめる外平町三名、永戸組合、小川組合、澤渡組合村、田人組合村には各二名

役場

第一校級長決定

本日發表さる

平第一小學校では今十五日後級級長を左の如く發表した

飛行大會延期

明後十七日に

既報本社後援いづみや玩具店主催の第四回郡下模型飛行機競技大會は明日開催する筈の處雨天の爲め明後十七日に延期する事になつたが尙亦十七日に雨天強風の場合には更に二十三日に延期する事になつた

南 下

漁場活況

石城郡豊間江名等に於ける近海漁業者は天候不順の爲め近海魚類が不漁なので宮城縣方面にあつた鰯群の南下を心待ちして居た處去る十三日には相馬郡沖合迄鰯群の南下を見たとの報に接し目下前記兩漁村では出漁準備に活氣を見て居る

學年代表

選手を決定

既報明後十七日午前七時半から開催される磐城高等女學校秋季運動會の各學年代表競技出場選手は左の如く

である

- △五十米(一年)野木鏡子(二年)石島トミ(三年)白土喜恵(四年)四家ヨシ
- △百 米(一年)神谷孝子(二年)柏原和子(三年)加藤菊枝(四年)吉田フミ
- △四百リレー(一年)鈴木キミ子 小湊都子 阿部良枝 直井ユキ(二年)安齊ヤス子 折笠浦子 白土智恵子 齊藤幸子(三年)遠藤サダ 戸來綾子 弓野とく 吉田泰子(四年)菅本シメ 半谷まさよ 若松静 渡邊トミ
- △走巾跳(一年)橋本良子(二年)赤塚チヨ(三年)山口ヨシミ(四年)橋本テル

倉橋教授講演

平婦人會總會は既報の如く廿三日午前十時から平第三小學校講堂で開催するが當日は東京女子高師教授倉橋惣三氏の講演がある

神谷分場視察

若松市農會角田早之助氏外五名は昨日來平今十五日農事試験場神谷分場で園藝作物の栽培法を視察見學の上午前十一時十八分平驛發列車で歸郷した

平 映 畫 界

一時帝都で騒ぎ立てた世界十傑の一である佛國トピスソノール大作である「巴里の屋根の下」は來る十七日より當地平館に於て公開される右映畫はボオラ、イルレイ嬢とアルベルブレジャン氏の主演でチャップリンが脱帽賞讃を惜しまなかつた名篇であると云ふ原作は巨匠ルネ、グレネル氏であり入場料は時節柄十錢で公開すると

秋雨煙る中に...

壯嚴なる忠魂祭

松ヶ岡公園忠魂碑前に 稀有の盛典

滿洲上海兩事變犠牲郡内出身勇士八氏の慰靈臨時忠魂祭は既報の通り今十五日午前十時から平町松ヶ岡公園忠魂碑前に於いて第二師團留守司令官、赤木知事、福島聯隊區司令官、若松第二十九聯隊留守隊長各れも代理以下遺族郡内官民等多數參列朝來からの秋雨煙る中に壯嚴に擧式されたが此の日在平磐中、磐女、平商、第一、第二、第三、藤田、平陽、青年、佑賢其の他官私學生五千餘名の參拜あり雨中とは言へ稀に見る盛典であつた

タクシに

驅逐され

腕車タツタ

二十一臺

既報平町に於ける營業人力車の車体検査は昨日平署内にて行はれたが總數僅に廿一臺で検査の結果一臺の不合格も見なかつたが往年町内唯一の交通機關として腕車萬能を謳はれた當時の百五十餘臺に比較すると其の八割以上が新興勢力タクシに壓倒驅逐された形にて茲にも時代の潮流が渦巻いてゐる

虎の子を

落失

蒼くなつた

鎌田の大王

石城郡神谷村字鎌田居住大工職石渡留吉(七)は昨夜九時頃同僚の平町彌宣町遠藤

木炭検査縣營に

猛烈な反對運動

二三賛成派を説服して

反對派團結す

既報木炭検査の縣營検査に就いては濱三郡木炭同業組合員の八割が反對を叫んで居るが一方縣では來年九月より縣移管となすべく着々計畫中なので反對組合員は早くも運動に着手し殊に昨十四日には福島木炭組合長高橋徳次郎氏外理事一名が來平濱三郡組合樓上で早川組合長江尻理事等の諸氏と反對案に就いて密議せる結果二三賛成派を説得して反對派の大團結をなし縣の豫算査定會前迄に猛烈な反對運動を行ふ事になつた

頻に横行

前借金を全部

横領の圖太さ

當時住所不定無職宮城縣亙理郡生れ太田木(五)は去る二日小名濱町字定西齋藤平藏を甘言で欺き平藏の長女シノブ(七)を千葉縣船橋町某方に子守として周旋前借二十五圓を全部手數料として横領逃走したので平藏は十五日平署に告訴したが最近平地方に無免許のモグリ

役員の変更

石城郡上下小川村衛生組合では來

明日のラジオ

十六日

今夜は北東の風
小雨模様明日は
北西の風に變

今晚の部

- 後六、〇〇(子供時間)
童話劇「靴屋のうた」熊本
童話劇協會
- 後六、二五 英語講座
中等科(二ノ六)ジョーケ
イジャー
- 後七、三〇 座談會「滿洲
の科學を語る」日本側出
席者(日本學術會々員
滿洲大學教授醫學博士久
後八、三五 詩吟
- 後八、五〇 連續講談
「關根彌太郎」(第四席)

明日の部

- 前九、一〇 營養料理
「鐵火汁煮、干の餡煮」

子之吉

懲役一年

磐崎の詐欺漢

本日判決言渡

既報石城郡上遠野村大字上遠野自動車營業鈴木子之吉

御難の湯本町

給水は開始したが 料金は徴收出來ず

二千五百圓フイ

湯本町では今夏八月上水道工事の竣成直後全町内に給水を開始したので永年の飲料水欠乏の煩みから解放された町民の喜は非常なものだが同町の水道條例が未だに縣から認可されないので

四倉爾市況

安値三十五圓代 今出廻期の最安値

四倉爾市場十四日の取引は出廻百四十五貫、最高五十四圓、最低三十五圓、馴五十二圓二十錢で今晚秋蠶出廻中の最安値を現出した

火事

損害五百圓

原因は残火

石城郡澤渡村大字中寺字宿三五農小泉瀧彌方より今晚午前四時頃發火し同住宅一棟を全焼した為村内各消防組が駆付消火に盡力した結果午前六時鎮火したが損害

平町人事

△平町堂ノ前一六木村收氏(二三)同駒組キク(二四)

榮養研究所

- 前九、三〇(子供の時間)
獨唱と兒童劇 第一部東
北學員教會日曜學校生徒
第二部出演仙臺市外記丁
キリスト政會
- 前一〇、〇〇 宗教講話
「人生は不斷の努力を要
す」融通念佛宗管長大僧
正上山戒全
- 前一〇、四〇 講演「速記
術發表五十年記念日に當
りて」衆議員書記官長田
口禰一
- 前一、一〇 謠曲講座
「謠の道しるべ」(四〇)實
演實生新解説池内信嘉
- 後〇、五〇 脚本朗讀「夏
祭浪花鑑」坂本猿冠者外
後一、五〇 運動競技「六
大學野球リーグ戦試合狀
況」慶應對法政(二回戰
後一、五〇 映畫物語「神

變磨香猫

月岡秀粹林秀峰
後二、五〇 放送舞臺劇
(大阪歌舞伎座より中繼)
「辨天娘女男白浪」濱松屋
市川羽左衛門外
後六、〇〇(子供の時間)
ラヂオスケッチ仙臺高工
風景仙臺高等工業學校生
徒有志
後六、三〇 趣味講演「義
光祭の話」山形渡邊徳太
郎
後七、三〇 長唄「四季の
壽」杵屋勝志賀外
後七、五五 漫談「結婚哲
學」徳川夢聲伴奏指揮福
田宗吉
後八、二五 新内
後八、五〇 連續講談
「關根彌太郎」終席田邊南
龍

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第七十六席 平

五勺から一升

平手は駿河屋と云ふ料理屋に入り酒を五勺持つてこいと言ひ付けた

女「五しやくと申しますと」

と一寸考へたらしい
造「判らん奴だな、一合の半分だ」

女「それで宜しうございませうか」

造「甚だ宜しくないがどうも致し方がない、氣を付けて燗を致せ、熱いと酒の味を消す、さりとてあまりぬるいのも困る、熱くなくぬるくなく七十度から八十度の間で燗をしろ」

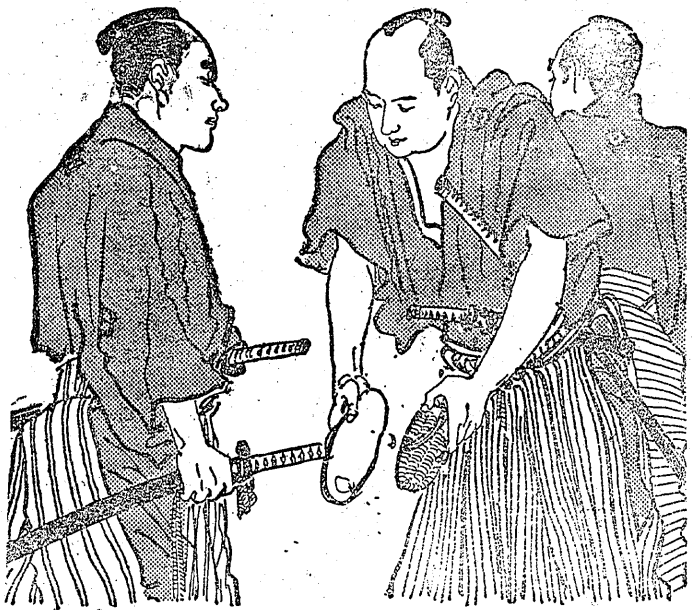
女中が妙な顔をしてゐる

鯉の洗肉で酒が来た、平手は九谷焼の猪口へつぎチビリ／＼と舌を付けて下へ置

造「是は良い酒だな、然し五勺では足らぬ、俺は一升飲まねば酒を飲んだやうな氣がいたさぬ、五勺とは餘り少量だな、コレ／＼女も肴を早く持つてこい」
女「お待遠様でございませう」
造「酒をもう一合持つて來

次第々々に量を殖やす、五合餘り腹に入ると氣が大さくなつて來た
造「どうなるものか、もつと飲め、勢力には氣の毒ではあるが、なるべく酔はぬやうに酒を殺して飲む事にいたす、コレ女中五合

會釋もせずズイとその前を通りヒラリと座敷へ上つたが、その時雪駄を取つてポン／＼と叩いた、それは砂を除く爲め、スルト塵が平手が前に置いた杯洗の中へバラ／＼と飛込んだ、造酒はムツとして無禮な奴だと三人を見たが先方はそんな事に頓着なく車座になり酒肴を取り寄せて飲み始めた造酒は塵の入つた酒を表へサラリと捨て、又五合取り寄せて飲みながら彼の三人をデロ／＼見て居る
婆「いつも御繁昌でお目出度うございます、鹿島の犬婆アでございませう」



持つて來い、冷でよい、其の杯洗を貸してくれ」
酒を取寄せて杯洗へ注ぎそれを少しづつ飲んでゐる所へ表から入つて來たは三人の武家、何れも黄平漆紋の帷子と麻の袴を着け長い犬小を腰にいたし、平手に

と云ひながら入つて來たは岡持を提た老婆、そのそばは白い毛並の綺麗な犬が一頭ついてゐる、婆アはズイと土間を通り、上り端で飲んでゐた三人の武家の前に來て
婆「旦那様、どうぞこの犬

に團子を買つてやつて下さいまし、私は鹿島のいぬ婆アでございませう」
○「何だ犬婆アだ、そのいぬに團子を買つてやれと我々は酒を飲んでゐる、酒飲みに團子はいらぬ」
婆「イニあなた方が召上がる物ではございませぬ、犬にやつて下さいませ」
○「ウムさうか、犬にやれば好いか」
婆「一串十六文でございませう」
○「黙れ團子を買ふは我々で、食べるは犬だ、その代金は貴様の物になる、貴様に好都合であらうが我々は迷惑だ、彼す處へ參れ、俺は婆アと犬は嫌いだ同じ老人でも爺イには憎氣は動い

婆アは憎いな、エー汗臭いそつちへ行けッ」
叱り附けられて婆アさんは平手の傍に來まして、
婆「旦那様、團子を買つて下さいませ」
造「その團子を犬にやるか」
婆「左様でございませう、これをやればいろ／＼な藝をいたします」
造「それは感心だな、團子を残らず買つてやる、岡持を此方へ出せ」
婆「有難うございませう、只今仕入れましたばかりで六

百文ほど頂きます」
造「よし／＼、それ二朱やるぞ、釣はいらぬ」
婆「有難う存じます」
造「どう云ふ藝をするな」
婆「吠えろと申しますと吠えます、廻れと申せばグル

／＼廻り坐れと申せば坐ります、拜めと申せば前脚を合せませう」
造「偉い物だな、貴様がこの犬に藝を教へたか婆左様でございませう、この犬がございませう爲に六十七の今日まで命を繋いで居ります」
造「人として犬に養はれる事は洵に不面目であるが貴様は女の事、それに年を老つて居る犬は養はれればとてさして恥でもあるまい、それにしてもこの犬は偉い畜生だ、この功德に依つて來世は人になれるであらうそれ吠えろ」
團子を見せるとワン／＼と犬は高く吠えました。

新築落成式開業御披露

秋冷の候皆々様には彌々御清祥に涉らせられ慶賀の至りに存じます。

借て過般弊店の類焼に際しては何彼と御高配を賜はりまして誠に有り難く感謝に堪へません、爾來鋭意新築工事中の處此程愈々完成し茲に更生の陣容を整へて再びお華客皆様をお迎へし最善の奉仕が出来る事になりましたので來十七日神嘗祭の佳辰を卜し營業を開始する事に相成りました何卒倍舊の御愛顧を垂れさせられ度新築落成御披露旁々茲に謹んで懇願申し上げます尚ほ三階大廣間の宴會席御利用に就ては格安の御相談に應ずる外新設食堂部では

牛鍋御飯付 三十五錢
お酒一本 三十錢
昭 和 七 年 十 月

平町田町
石川亭
電話四三番

三河産業博覽會
昭和産業博覽會
金牌受賞

かまぼこ

お詰仕出

平町一丁目

お惣用菜
さつま揚
吉原揚

一本棗寅

電話一四一番